



設置・取扱い上のご注意

空冷式チリングユニットの防風対策について

空冷式チリングユニットは外気温度が低い時、ファンの台数および回転数制御により風量を減らして運転しています。

従って冬季運転時(外気5℃以下)において、強い風(風速10m/s以上)が当たる

場所に設置する場合は次のような防風対策を行ってください。

- 空気側熱交換器の面に風が当たらないように設置してください。

目安としては設置する場所の冬場の季節風の風向きを調べ、空気側熱交換器の面が風下側に向くように設置します。

- 簡単施工で風を避けることができる防風板もオプションとして用意しておりますのでご利用ください。詳しくは各改裝・別売品ページをご覧ください。



水用ストレーナの設置のお願い

- 水配管入口には必ず製品に付属のストレーナを取付けてください。

水配管入口にストレーナを取付けずに運転をされると、水配管内のゴミが水側熱交換器内に詰まり、機器の異常停止や故障の原因となります。このため、水用ストレーナの設置を行ってください。

- ストレーナは、各チリングユニットごとに機内に付属させています。

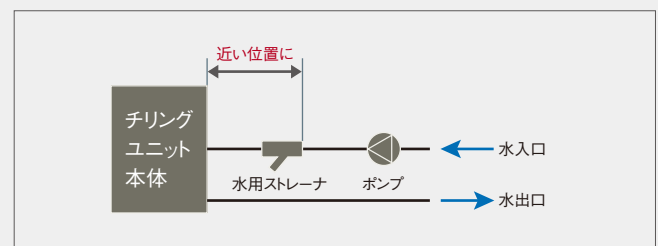
- チリングユニットの冷水に、指定水質以外の水を熱媒として使用しないでください。

- 水配管とストレーナ清掃

- 水配管は施工後、必ず配管内部の清掃を行ってください。
- 試運転終了後は、必ずストレーナに溜まったゴミを清掃してください。
- 運転開始後は、定期的にストレーナの清掃を行ってください。

- 水用ストレーナの設置場所

ストレーナは水配管入口側のチリングユニット本体にできるだけ近い位置に取付けてください。



使用基準

空冷式の場合

電源電圧	定格電圧の±10%以内
電圧不平衡率	定格電圧の±2%以内
電源周波数	定格の±2%以内
水圧	0.7MPa以下
水質	銅、鉄、ろう材を侵す溶解物を含まないこと(JRA-GL-02-1994の水質基準値による)
周囲雰囲気(外気の気質)	次のような場所への設置は行わない 1. 鉱物油がたち込めたり、調理場など油の飛散や蒸気の多い場所 2. 亜硫酸ガスなど腐食性ガスの発生する場所 3. 電磁波を発生する機械がある場所 4. 可燃性ガスのもれるおそれのある場所、カーボン繊維や引火性粉塵の浮遊する場所およびシンナー、ガソリンなど揮発性引火物を取扱う場所 5. 車両、船舶への搭載など
設置場所	・チリングユニットの重さに十分耐えうるところ ※車両、船舶等の可搬型構造物への搭載は不可 ・屋外でチリングユニットから吹出空気ショートカットしないところ ※必要に応じ積雪、横風対策を行う ・結露水等の流水が問題ない場所であること ・海浜地区など塩分の多い場所に設置する場合、塩害対策または耐塩害、耐重塩害仕様のチリングユニットを使用すること
機外への排水	ドレン出口管に配管工事を行い、必要に応じて雑水排水用のピットを基礎に施すこと

注1. 上表以外の項目は技術関係資料に従ってください。

注2. 本機はブレージング式プレート熱交換器を搭載しております。ご使用の際には、日本冷凍空調工業会発行「チリングユニットに用いられるプレート式熱交換器の取扱いについて」を遵守願います。

水冷式の場合

電源電圧	定格電圧の±10%以内
電圧不平衡率	定格電圧の±2%以内
電源周波数	定格の±2%以内
冷温水の水圧	UWP-Aは0.69MPa以下、UWD-FならびにZUWD-BAは1.0MPa以下(冷水、冷却水とも)
水質	JRA水質基準「JRA-GL-02-1994」によること
設置場所	屋内(雨滴がかからないようにしてください)
機外への排水	雑水排水用のピットを基礎に施してください

注1. 上表以外の項目は技術関係資料に従ってください。

外装について

- 外装について記載のない場合は、アイボリー(5Y7.5/1)となります。

高圧ガス保安法について

- 高圧ガス保安法に基づく手続が不要な製品でも、手続が異なる他の冷凍機と冷温水を共通する場合(合算)は手続き内容が変わる場合があります。



設置・取扱い上のご注意

使用対象について

- このカタログに掲載のチリングユニットは、一般空調用です。
- プロセス冷却用途に使用する場合は、計画段階で営業窓口にご相談ください。
- 車輛、船舶等では使用しないでください。水漏れ、漏電などの原因となります。尚、船舶用機器については別途ご相談も承ります。

据付けに際して

- チリングユニットには、電気工事や配管工事が必要です。据付けは、据付説明書をよくお読みになり、周辺設備を適正に施工ください。ご不明な点がございましたらお買い上げの販売店または専門業者にご相談ください。工事に不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になることがあります。
- 本商品の別売品は必ず当社指定の商品を使用してください。また、ユニットには電気工事や配管工事が必要です。お買い上げの販売店、もしくは専門業者にご相談ください。ご自身で工事をなされ不備があると水漏れや感電・火災などの原因になることがあります。

ご使用に際して

- ご使用の前に「取扱説明書」をよくお読みのうえ正しくご使用ください。
- 本商品の機内の保守・点検、修理には専門技術が必要です。必ず購入された販売店にご相談ください。

ご使用場所について

- 可燃性ガスの漏れるおそれや引火物のあるところへは据付けしないでください。可燃性ガスの発生・流入・滞留のおそれのある場所やカーボン繊維が浮遊する場所では、火災の原因となることがあります。

冷媒について

- 当社が指定する冷媒以外を封入することは、絶対に行わないでください。封入冷媒の種類については、機器付属の取扱説明書あるいは機器本体の銘板に記載されています。それ以外の冷媒を封入した場合の誤作動・故障などの不具合や事故につきましては、当社としては一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

保守点検、アフターサービスについて

- フロン排出抑制法によってフロン類が充填された業務用冷凍空調機器（第一種特定製品）は冷媒の漏えい等についての定期的な点検が義務化されており、チリングユニットもその対象となります。詳細についてはP.157をご覧ください。
- 無料修理保証期間（1年）経過後の修理については、販売店またはダイキンコンタクトセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 補修用性能部品の保有期間について…「補修用性能部品」とは、その製品の機能を維持するために必要な部品のことです。当社は、このチリングユニットの補修用性能部品を製造打切後9年保有しています。
- 保守点検のすすめ…チリングユニットおよびその周辺・関連機器を長期にご使用になると熱交換器等が汚れ、性能が低下したり、水配管内に錆などが詰まるトラブルが発生することがあります。分解や内部清掃には専門の技術が必要です。通常のお手入れとは別に保守点検契約（有料）をおすすめします。機種・用途によっては、法で定められた定期的な点検が必要となる場合もあります。詳しくはお買い上げの販売店またはダイキンコンタクトセンターにご相談ください。
- 本商品を長く安心して使いいただくためには定期的な保守・点検が必要です。各部品の点検、保全周期については日本冷凍空調工業会発行のガイドラインを参考にしてください。

JIS規格・JRA規格について

ダイキンのチリングユニットは日本工業規格JIS B 8613-1994へ準拠、および基について製造しています。
ダイキンのスクリーン冷凍機（400kWを超える機種）は、JRA規格JRA 4037へ準拠、および基について製造しています。

●日本工業規格:JIS B 8613-1994

容積形電動機圧縮機と蒸発器、凝縮器等で冷凍サイクルを構成し、水の冷却や加熱を行うチリングユニットについて規定。この規定に基づいて測定した定格冷却能力が420kW以下の機器が適用機種となります。尚、この規格は空気調和用途に使用するものに適用し、空気調和用途以外での使用および水以外で冷却や加熱を行う機器は適用しません。

●JRA規格[参考掲載]

・JRA 4066

容積形電動機圧縮機と蒸発器、凝縮器等で冷凍サイクルを構成し、水の冷却や加熱を行うチリングユニットについて規定。この規定に基づいて測定した定格冷却能力が420kW以下の機器が適用機種となります。

・JRA 4037

スクリーン圧縮機と圧縮機駆動装置（電動機、原動機）、蒸発器、凝縮器、制御装置、機能部品、付属冷媒配管等で冷凍サイクルを構成し、水やブラインの冷却や加熱を行うスクリーン冷凍機で400kWを超えるものの構成、性能、試験などについての規定です。

漏電遮断器について

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が電気設備技術基準「内線規定JEAC8001（最新のもの）」及び据付説明書に従って施工してください。漏電遮断器（インバーターの場合は高調波対応品）を必ず設置してください。取付けられていないと感電、火災の原因になることがあります。

高調波について

本カタログに掲載のインバーター機種では、漏電遮断器には必ず高調波対応品を設置してください。
容量については技術資料の「機外配線要領」または据付説明書の「標準配線器具明細」をご参照ください。

- 電流値が20Aを超えるチリングユニットは「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」の対象機器となります。回路種別番号、換算係数は機種により異なりますので営業窓口までお問い合わせください。
- インバーター方式のチリングユニットは高調波発生機器です。機器から発生した高調波は電源線を伝わり、他の設備や機器に異音、振動、発熱、誤動作などの影響を与えることがあります。詳しくは営業窓口までお問い合わせください。

ブライン内融式氷蓄熱ユニットの熱源機について

- 空冷ヒートポンプタイプは、加熱能力が冷却能力より低くなりますので、条件によって暖房能力が不足する場合があります。この様な場合は、別に加熱装置を追加するか、2次側の暖房能力を抑える、または、標準タイプの空冷ヒートポンプチャラーのご採用をおすすめします。

タンクユニット（蓄熱槽）について

- 冬期はタンクユニット天板の隙間から湯気が出る場合がありますが、水温と外気温の温度差により生じるもので、異常ではありません。
- タンクユニット内でブラインが漏れた場合、オーバーフロー管より流出する可能性がありますので、排水を他の用途に二次使用することは避けください。
- 現地の設置条件によって音の影響が出るおそれのある場合は、別途対策が必要となります。
- 使用条件、外気条件によりドレン水がドレン管以外から滴下する場合があります。問題となる場合は基礎に排水処理をしてください。
- 耐震設計は1.0Gです。タンクユニットは1.5G、2.0Gの改裝対応可能ですが、その他のユニットの改裝対応は基礎穴部のみとなります。